

令和5年度第2回野洲市介護保険運営協議会  
議事録

開催日時	令和5年10月4日（水） 午後1時30分～午後3時15分
開催場所	健康福祉センター 2階 集団指導室
出席者 （委員）	立入委員、北山委員、小林委員、田中委員、森井委員、村井委員、東郷委員、 政本委員、芳野委員、浅野委員、
欠席者	本田委員、畑野委員
事務局	辻村健康福祉部次長、橋本介護保険課長、今在家高齢福祉課長兼地域包括支援センター 一所长、村山高齡福祉課課長補佐、富澤地域包括支援センター副所長、山本介護保険 課長補佐、
	株式会社ぎょうせい（第9期介護保険事業計画関係）
議事	(1) 第8期介護保険事業計画（令和3～5年度）成果と課題【資料1】（P.17～） (2) 第9期介護保険事業計画骨子（案） 【資料1】
資料	第2回野洲市介護保険運営協議会次第 第9期介護保険事業計画骨子（案）

議 事 の 経 過	
発 言 者	発 言 内 容
立入会長	<p>1. 開会 出席 10 名。定員 12 名の半数以上の出席であり本会議が成立していることを報告。</p> <p>2. 挨拶 健康福祉部次長より開会挨拶</p> <p>3. 会議録署名委員の指名 会長より、議事録署名人に浅野委員と芳野委員が指名された。</p> <p>4. 議事（1）第 8 期介護保険事業計画（令和 3～5 年度）成果と課題について</p>
事務局	資料 1（P. 17～26）、当日配布資料（施策の方向性等まとめ資料・現行計画施策体系資料）について説明。委員からの意見は以下のとおり。
森井委員	<p>これまでの会議でもたくさんの議論がなされており、私自身も意見を出させていたが、地域のサロンや高齢者の集まりの場といった部分への意見くらいしかないが、サロン等の高齢者が集まる場の推進を図っていくことに関する項目の中で、現在挙げられている課題は、今後重要なものとなっていくと思うし、改善を図っていけるととても良いと思う。</p> <p>また、移動に関する部分も切実な問題で、今は車で移動ができているが今後はどうなるか、という方が多くいらっしゃると思う。市の循環バスについても、駅の方へは行くことができるけれど、祇王学区にある医療機関には、乗り継いで行かなければならないので困るというお話も聞く。各地域から医療機関へ直通で移動できる交通機関ができるといいと思う。</p> <p>移動に関しては、サロンや百歳体操といった活動へ参加する際にも必要で、行きにくくて困っているという話もよく聞く。そういった部分が、少しでも解決できるような取り組みがなされていくと良いと思う。</p>
政本委員	<p>17 ページに記載されている事業指標で「生きがいがあると答えた割合」がある。アンケート結果を用いた指標であると思うが、この指標の意味合いについて、どう理解したらいいのか、どういった指標なのか、ご説明いただけるとありがたい。</p> <p>また、19 ページに記載の「会やグループに参加している割合」についてみると、自治会は 4 割ほどの参加となって、通いの場については 14.7%となっている。しかし、ふれあいサロンや百歳体操への参加率は、もっと高いのではないかと、実際に地域の方と関わる中で、自身は感じている。</p> <p>また、21 ページに記載の「家族や友人との付き合い」と、22 ページにある「近所や地域との付き合いの様子」について、これらの関係性について教えてもらえればと思う。</p> <p>22 ページにある「災害時要援護者の登録をしたいですか」について、登録したいと思っている方の割合が 6～7 割と高いのに対し、登録しているという割合が低く、登録できていない方が多くなってしまっている現状がある。登録制度に関する、PR 不足もあるのかもしれないが、ニーズの割に登録者が少ないと思う。状況等</p>

事務局	<p>について伺えればと思う。</p> <p>最後に文言について、26 ページに「検討を進める必要性」と記載があるがこの「必要性」は要らないのではないかと思う。書きぶりについて検討いただきたい。</p> <p>まず1点目の、「生きがいがある」と答えた割合に関する指標は、おっしゃる通りアンケート結果を用いた指標となっており、「生きがいを持って」過ごしていただくことで、高齢者の方々に健康に生き生きと過ごしていただくための目標となっている。「生きがいを持つ」人の割合を上げていくことを目標として設定させていただいており、目標を85%とさせていただいていたが、今回の調査で89%となっており、目標以上の結果となっている。</p> <p>2点目の自治会の参加割合に比べて通いの場への参加が少ないのは実際の印象と異なる、とのご意見をいただいた部分について、こちらはアンケートでの結果となっており、回答される方として「自治会」と記載されていた場合、自治会に関する活動全般を指すとお考えになって、自治会で開催する運動会や地域の草刈り・清掃といった部分も含めて、参加していると答えてくださったのだと思う。それに対し、通いの場については、例示がされていたことで「ふれあいサロン・百歳体操」というピンポイントの項目への参加の有無を回答くださったと思うので、それにより割合が少なくなっているのだらうと認識している。</p> <p>3点目の「家族や友人との付き合い」と「近所や地域との付き合いの様子」に関しては、これらは関連がある設問ではない。付き合いが「ある方だ」と回答した方のみが、次の設問に回答するといったようなものではなく、それぞれの設問をどちらも全員に答えていただいている設問となっている。家族や友人との付き合いがあるという割合と近所や地域との付き合いがあるという方の割合は同程度という結果となっている。</p> <p>4点目の災害時要援護者の登録については、民生児童委員さんが、支援が必要という方に関する情報を市と共有いただき、要援護者について取り残さず支援できるよう登録を進めているところ。個別の支援計画を作る際は、支援に協力いただく方についても一緒に見つけていかないと作成できないため、そのあたりが、登録が進んでいない要因ではないかと考えている。登録の推進に関しては担当課である社会福祉課とも情報共有しつつ、原因について整理していければと思う。また、最後にご指摘いただいた文章表現については、おっしゃる通りかと思うので、内容について修正させていただく。</p>
村井委員	<p>11 ページに記載のある、サービス利用率に関して、国や滋賀県は上昇傾向なのに対し、市では減少傾向というデータがあるが、要因としてサービスや施設の不足があるのではないか。</p>
事務局	<p>市の利用率は、これまでは全国や県よりも高い利用率となっており、令和5年では県よりは低くなったが、全国よりは今も高い状況。</p> <p>認定を受けた方の中にも、サービスを使わずにがんばるという方もいれば、要支援認定は受けたが、地域の通いの場をメインに活用いただいている方もいらっしゃる。実際、市の現状として、デイサービスがいっぱい使えないというような状況はなく、利用したい方は利用できる状況にある。サービス整備の有無については今後も検討していければと思う。</p>
田中委員	<p>災害時の要援護者に関する部分で、介護が必要な方をどう支援していくかについ</p>

	<p>ては、個別計画の作成だけではなく、市としてどう動いていくのか、しっかりと考えていくことが必要だと思う。ケアマネジャーやサービス事業所等の支援者も含めて、連携して動いて行くことが大切な部分だと思うので、縦割りでなく、連携強化して行ってほしい。</p> <p>また、この登録に関して、民生児童委員が関わっていることを初めて知った。また、サービス提供側もこういった支援の計画を立てているが、浸透していない。そういった部分についても、発信を強化して行って周知して行ってほしい。このあたりも連携して取り組んでいくべきものだと思うので、今後もお願いしたいと思う。</p>
事務局	<p>サービス提供いただいている皆さまにおいても、災害時の支援策を考えていただいていることについては、運営指導の際にもお話を聞かせていただいております。災害時における支援方法について、様々な調整・検討を進めていただいていることを認知しておりながら、計画書の書きぶりについて不足があったことお詫び申し上げます。計画書の記載内容だけでなく、今後の支援策に関する連携についても、こちらこそ今後ともお願いできればと思う。</p> <p>また、計画書について、今、ご指摘いただいた部分のようなコラムをたくさん掲載し、分かりやすい計画づくりをしたいと思い、策定を進めているところ。市のやることを羅列するだけでなく、お役立ちブックになるような計画にしたいと考えている。掲載する情報についても、また提供いただければありがたい。</p>
芳野委員	<p>人材不足に関する課題についても記載いただいているが、人材不足・人手不足に関する課題は現場でも出ており、ケアマネジャーについては高齢化の進行もあり、ケアマネジャー不足が深刻な状況。他市町においても、ケアマネジャーがいないからサービスが使えないという状況となっているという話も聞く。ケアプランの作成に費用が掛かるようになってしまうかもしれないという話が挙がっている中、セルフケアプランに関する情報周知も必要になってくるかもしれない。</p>
事務局	<p>ケアマネジャーの皆さまには、常日頃からお支援いただいております。ご苦労いただいている。居宅介護について、有料化の検討が進められている中で、今回は見送られたところではあるが、人材不足・人手不足という課題は、今後も続いていくものであると認識している。セルフケアプランの作成が必要となった際は、体制についても検討が必要になるので、今後検討を進めていければと思う。</p>
浅野委員	<p>11 ページに記載のサービス受給率について、野洲市は居住系のサービス受給が少ない傾向にある。これは、居住系のサービスが不足しているということなのではないか。</p>
田中委員	<p>施設サービスでしっかりと賄えているから、居住系が少なくなっているのだと思う。全国では、施設サービスに入れずに待機となり、居住系サービスを使う方も多いが、野洲市では、施設サービスに入れないということはなく、充実しているため、居住系サービスが低くなっている状況なのだと思う。</p>
浅野委員	<p>19 ページにある「会やグループに参加している割合」について、「老人クラブ」の数値はあるのか。</p>

事務局	老人クラブについても、アンケート項目としては入っているが、前回の会議でも現状として人数が減っているといったお話があったので、ここでは記載していない状況。
小林委員	家族等との付き合いが「ある方だ」と回答する割合が全国と比べ多いという説明があったが、他の自治体はそんなに低いのか。
事務局	説明が明確でなく申し訳ない。全国と比べて多いという比較した結果ではなく、多くなっているという、現状をお伝えさせていただいた。
立入会長	このアンケートについては、65歳以上の方にご回答いただくアンケートなので、付き合いがあるという方の割合が多くなっているが、ここに若年層を加えると、ここまでの高い割合とはならない。現場の印象ではあるが、若い人の付き合いは希薄化が進んでいる。
事務局	会議に先立ち資料送付した際、本日欠席の畑野委員からご意見をいただいているので、ここでお伝えさせていただく。 (畑野委員意見読み上げ)
東郷委員	19 ページに記載があるように、百歳体操等への一般高齢者の参加者が少ない状況。介護予防は重要なので、ここは力を入れないといけない部分であると思う。基本目標1の「いつまでも元気で暮らせるまちづくり」では、元気を維持しよう・予防が大事だということをもっと強く前面に出して示していてもいいのではないかと思う。 また、災害時の要援護者に関して、支援者として登録をするとなった際、なにをしなければいけないのだろう、と不安な気持ちが出てきてしまうと思う。地域の方で助け合いましょう、困った時に手助けしましょう、というようなラフな感じで支援を求められたら、やってみてもいいと思うけれど、登録するので手を上げてと言われたら、やはり尻込みする方が多いのではないかと思う。
事務局	百歳体操等の活動など、介護予防については、市としても力を入れていきたいと考えている部分。ご意見いただいたように介護予防に関しても、しっかりと記載をしていければと思う。20 ページに記載しているような情報発信をもう少し強く打ち出して、充実できればと思う。
東郷委員	フレイルの部分に「食事」の項目があるが、「こんな食事が良いよ」というような情報発信もあると良いと思う。
事務局	ご意見ありがたい。参考にさせていただく。
立入会長	多くの意見をいただいた。事務局としても検討を進めていってほしい。

	<p>(2) 第9期野洲市高齢者福祉計画・介護保険事業計画骨子案について資料1 (P.1~16、P.27~) について説明。委員からの意見は以下のとおり。</p>
事務局	資料1について説明。委員からの意見は以下のとおり。
立入会長	骨子案について、ご説明いただいたが、次回以降の会議議題としては、計画素案となるのか。
事務局	おっしゃる通り。次回会議(11月下旬)には計画素案を出させていただく。その後、1月頃に会議を行い、パブリックコメントを経て、最終2月ごろに最終案の検討をいただく会議を開催させていただければと思う。
小林委員	<p>7ページに記載のある人口について、3年齢区分を割合で示すグラフについても記載されているとわかりやすいと思うので検討いただきたい。また、人口構造に関して、何人で高齢者を支えるというような表記があると、さらにわかりやすくなると思う。</p> <p>また、28ページに記載のある、地域包括ケアの図に関して、野洲市ほほえみやす21健康プランにも同じような図が記載されている。同じ図なのであれば、一緒のものを記載する方がいいと思うので、確認いただければと思う。</p> <p>他計画の策定の際にいただく会議資料では、現行計画の評価について、○△×のように、達成度を載せているものもあつたりする。達成度が示されていると、×のところだけでも見ようかな、△の部分を見ようかとなつたりする。評価の方法について、検討いただければと思う。</p>
北山副会長	<p>6ページ(2)の文章に、「以下の調査を実施しました」とある。この部分には、何か調査に関する情報が載ってくるということか。</p> <p>もう1点、認知症高齢者と認知症患者という表記が計画書の中には出てくる。これはなにか違いがあつてそう記載しているのか。理由等あれば教えていただきたい。</p> <p>国の基本指針としても、地域特性を踏まえたサービス提供が勧められており、市として、または湖南圏域として、高齢者を取り巻く地域特性がどのようなものなのかという部分を把握しておくことは重要であると思う。そういった地域特性がわかると、サービスのニーズ等もわかりやすく把握しやすくなるだろう。また、8期の計画では三上地区の特徴について言及する項目があつた。そういった部分も野洲市の特性の1つであると思う。</p> <p>人材不足に関する意見が今回の会議でも挙がっており、骨子案の今後の課題としても、課題が顕在化していると記載していただいている。これに関して、現場の者としてお話しさせていただくと、顕在化という表現では表しきれないほど、人材不足については差し迫った課題となっており、今後も現状のサービスを維持していくことを前提とした場合、人材に関しては枯渇しているといつていいと思う。サービスを維持していく、または整備していく際には、人材の確保が不可欠なので、素案に向けて盛り込み予定の項目かもしれないし、市だけの取り組みではないと思うが、取組について考えていくことが必要。</p> <p>野洲市で働きたいという人に、どうやって市まで来てもらうか、関係者みんなで</p>

	<p>考えて取り組んでいくことが大事になると思う。そういった部分についても計画に盛り込んでいければと思う。</p>
事務局	<p>まず1点目のご指摘について、この部分には、元々17ページに記載のアンケート調査の概要を載せており、こちらに移動した際に文章の修正を失念していた。修正させていただく。</p> <p>2点目の認知症患者については、国の実施した調査研究で認知症患者と用いられていたため、その文言を使用させていただいている。文章中の表記について、再度精査させていただき、分かりやすい表記となるよう調整させていただく。</p>
森井委員	<p>表記の違いには、若年性の認知症との関係もあるのではないか。</p>
事務局	<p>ここで記載している認知症高齢者数は、65歳以上の方の人数となっており、若年性の方の人数は含まれていない。しかし、施策として認知症対策に取り組んでいく際には、若年性の認知症の方への支援もしっかりと行っていく。</p>
政本委員	<p>圏域ごとの情報についても、掲載しておりとても良いと思う。出来れば、圏域ごとではなく、地域ごとの情報も記載していけるといい。野洲と三上でも地域特性は違うので、野洲なら野洲、三上なら三上の数値もあると、違いがみえてくると思う。</p> <p>今後、高齢者はますます増えていくし、サービスの利用量についても増えていくだろう。高齢者施策を進めていく際、不安になるのは予算が不足しないかという部分。予算配分を考えていく際に、施策の①～⑨のどこに重点を置くのかという部分は重要な要素。予算がパンクしないように、あれもこれもしていくという考え方ではなく、重点的な取り組みをチョイスしてそこを積極的にやっていく視点も持ってほしい。</p>
立入会長	<p>人材確保は重要な課題であると思うが、市だけで取り組んでいくものではないと思う。国の方で現在進めている人材不足への取り組みはどういったものがあるのか。人を集めるだけでなく、給与についても考えないと続かない。国としての支援策、国の判断はあるのか。</p>
事務局	<p>報酬改定については、令和6年に予定されており、給与に関する部分は国としての判断も待ちつつ、考えていきたい。人材確保に関しては、自分たちでどれだけの支援ができるだろうと、市としても考えているところ。皆様にもお知恵をお借りしながら、意見をいただきながら、今後も検討を進めていきたい。</p> <p>9月に各施設やサービス事業所に対し、職員数に関するアンケートも実施させていただいており、全部の事業所ではないが、直接お話を聞きに伺わせていただいた。他の施設やサービス事業所ができた際にどういった影響があったのか、といった質問もさせていただいたり、生の声を聞かせていただいた。そういった内容についても、取り組みに反映させていければと思う。</p> <p>人材確保に向けた施策としては、特効薬的な施策を打ち出していくことは難しいと思う。今後、高齢者が増加していったとしても、介護予防に力を入れて、サービス利用が必要ないという元気な高齢者の割合を増やしていくことも、人材不足への対応策の1つであると思うので、予防・健康維持も重要視していきたい。</p>

立入会長	国の指針では、経営の大規模化というような表記もあるが、そういった取り組みは自治体で簡単にはできない。市としての取り組みについて、考えてほしい。
北山副会長	<p>人材不足の課題解決は、よほどの大きな転換がないと難しいだろうと思う。しかし、このまま何もしないままだと、ますます人材は縮小する一方。手は打っていないといけないと思う。</p> <p>就職フェアに参加すると、サービス事業所も参加しており、他自治体の事業所も見かける。その際、やはり、大津市や草津市に比べると、野洲市は行ったことがないという方が多く、野洲市がどういったまちか知らない参加者がたくさんいる。それによって、知名度のある市町に人材が引っ張られてしまう可能性がある。野洲市ってこういうまちだよ、ここで働いたらこんな良いことがあるよ、ぜひ働きに来て、といったような市をPRする冊子などがあれば、あわせて取り組んでいけること、市の良さを伝えていくことも大事なのではないかと思う。「介護事業所に」だけでなく、「市に」どう人を集めるかについて、みんなで知恵を出しあって考えていくことが大事だと思う。</p>
立入会長	<p>たくさんの意見をいただいた。素案に反映してほしい。</p> <p><b>5 その他</b> 事務局から、次回会議日程の調整について依頼。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>

以上、本議事録が正確であることを証するため、議事録署名人は次のとおり記名する。

令和5年 月 日

議 長

議事録署名人

議事録署名人